

## 資料・書籍で学ぶ 南アジア

分野	タイトル	作成年	概要
インド			
産業育成	<a href="#">『シルク大国インドに継承された日本の養蚕の技』</a>	2012	日本の近代化を支えた生糸生産。養蚕の技術と知識は海を渡り、南インドの農民の生計向上に大きな役割を果たしました。技術移転を通じて、現地の風土に合わせた技術と知識を生み出し、高品質の生糸を生産できるまでに至った秘密を解き明かします。
運輸交通	<a href="#">『マダム、これが俺たちのメトロだ！ インドで地下鉄整備に挑む女性土木技術者の奮闘記』</a>	2018	インドの大都市では自家用車の急増による交通渋滞、排気ガスによる大気汚染といった問題が浮き彫りになっています。これに対応するため、1997年に首都デリーでのメトロ建設事業が開始されました。本書は、著者である阿部さんが、日本でもインドでもまだ数少ない女性土木エンジニアとして、メトロ建設現場で奮闘しながら着実にインド人の信頼を勝ち取ってゆく日々を記したヒューマンストーリーです。
運輸交通	<a href="#">プロジェクトストーリー「漫画版」「マダム、これが俺たちのメトロだ！インドで地下鉄整備に挑む女性土木技術者の奮闘記」</a>	2022	上記プロジェクトストーリーの漫画版です。
産業育成	<a href="#">『インドビジネス ラストワンマイル戦略 SDGs実現は農村から』</a>	2021	インドの開発状況を踏まえながら、これまで日本では伝えられてこなかった農村ビジネスの実態やラストワンマイルの克服方法、また、困難を乗り越えた起業家らの活動を現地インタビューや写真で鮮やかに伝えます。インド進出を目指す中小も含めた日本企業にとって、SDGs達成にも貢献する新たなビジネス構築に大きなヒントを与えるものです。
ネパール			
運輸交通	<a href="#">『未来をひらく道 ネパール・シンズリ道路 40年の歴史をたどる』</a>	2016	大国のインドと中国に挟まれ、港を持たない内陸国であるネパールにとって、インドに通じる幹線道路は、流通と人びとの移動を確保する重要な生命線です。シンズリ道路は、生命線としての役割を果たす重要なインフラとして建設されました。構想から40年、建設20年という長い年月を要した背景には、様々な困難がありました。
パキスタン			
教育	<a href="#">『未来を拓く学び「いつでも どこでも 誰でも」-パキスタン・ノンフォーマル教育、0（ゼロ）からの出発』</a>	2021	義務教育の対象年齢の子どもや若者のうち、44%が学校に通っていないパキスタンで、「いつでも、どこでも、誰でも、いくつになっても」学び始める、また学び直せる機会を提供するノンフォーマル教育事業が行われています。

バングラデシュ			
水資源	<a href="#">『いのちの水をバングラデシュに 砒素がくれた贈りもの』</a>	2015	本書は、宮崎県を拠点に活動するNGOアジア砒素ネットワーク（AAN）が、バングラデシュの飲み水の砒素（ヒ素）汚染の問題に20年以上にわたり取り組んできた軌跡を描いたものです。
廃棄物	<a href="#">『クリーンダッカ・プロジェクト ゴミ問題への取り組みがもたらした社会変容の記録』</a>	2017	目覚ましい経済成長を続けるバングラデシュ。しかし首都のダッカでは、ゴミ問題が大きな社会的課題になっていました。ダッカをきれいにするという共通の目標に向かい、行政と住民が協力しあうようになったクリーン・ダッカへの道。単なる「ゴミ収集」ではなく、総合的な「廃棄物管理」へと現地の人々の意識が変わっていった成功の軌跡がつつられています。
産業開発	<a href="#">『バングラデシュIT人材がもたらす日本の地方創生-協力隊から産官学連携へとつながった新しい国際協力の形』</a>	2021	IT資格という武器を若者たちに。この強い想いの元、日本・バングラデシュの多くの関係者の働きで、バングラデシュにおけるIT国家資格の導入が実現しました。また、産官学の連携協力により、多くのバングラデシュIT人材が日本全国で活躍しています。
運輸交通	<a href="#">Story03 ダッカメトロ開発事業   独立行政法人 国際協力機構 JICA 採用サイト</a>	2023	2022年12月に部分開業した、バングラデシュ初の都市高速鉄道、“ダッカメトロ”は、総事業費が1兆円を超える壮大な規模の交通インフラ開発事業です。何世代にもわたるJICA担当者の想いをつなぎながら推進される国の未来を築くビッグプロジェクト。その現場に立つ職員の思いを紹介します。
全般	<a href="#">バングラデシュとJICAの協力50年 —黄金のベンガルをめざして—</a>	2022	バングラデシュと日本は、2022年2月に外交関係樹立50周年、2023年には日本による開発協力開始から50周年となります。この節目を記念し、バングラデシュにおけるJICAの歩みを振り返ります。
南アジア地域全体			
全般	<a href="#">南アジア 18億人の鼓動 (mundi 2020年5月号)</a>	2020	JICA広報誌Mundiの南アジア特集号。世界人口の約4分の1、約18億人が暮らす南アジア地域。日本との交流も盛んで、多くの人材が育っています。
全般	<a href="#">(ODA) 外国の切手・貨幣になったODA (南アジア地域)   外務省 (mofa.go.jp)</a>		ODA事業が切手や貨幣となり、現地の人々に親しまれ、日々使用されています。
運輸交通	<a href="#">みんなに優しい 交通インフラ (JICA Magazine 2022年8月号)</a>	2022	JICA広報誌（JICA Magazine）の交通インフラ号に南アジアが取り上げられています。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・市民の自由な移動に貢献： バングラデシュ、ブータン 橋梁</li> <li>・都心を貫く初の地下鉄を運営・維持管理面でサポート：バングラデシュ 鉄道</li> <li>・安全な山岳道路の整備で暮らしの生命線を守る：インド 山岳道路</li> <li>・交通計画の知見を生かし、インフラの課題解決に貢献：ブータン 河合正吉／元JICAシニア海外協力隊（現JICAブータン事務所 企画調査員）</li> <li>・鉄道好きのための6つのトピックス：バングラデシュ、パキスタン、インド</li> <li>・屋根の上のタイムトラベラー：バングラデシュ</li> </ul>